



キャリアパスフォーラム 第3弾 - 海外の日本語教育現場（北米編） - 開催報告

日時：2023年2月4日（土）10:00～12:00（※希望者は12:20まで延長）

場所：Zoomによるオンライン開催

参加者：参加者51名（関係者含む）

登壇者：三井知之（公益財団法人 海外子女教育振興財団 教育アドバイザー）
筒井由美子（ロサンゼルス補習授業校あさひ学園高等部 グローバルコース主任）
清水貴広（独立行政法人 国際交流基金 米国若手日本語教員（J-LEAP）主管担当者）
西島阿弥子（独立行政法人 国際交流基金 日本語国際センター専任講師）
高見智子（全米日本語教育学 2022年会長、ペンシルバニア大学上級講師 東アジア言語文明学科
日本語プログラムディレクター）
魚立康夫（フロリダ大学 言語文学文化学科 上級講師）

チャレンジ支援委員会では、将来日本語教育にかかわりたい方・日本語教育の新たな分野にチャレンジしたい方などに日本語教育業界の多様な現場をよく知ってもらうためのイベントとして、「キャリアパスフォーラム」を年1回実施しています。

第3弾として、2023年2月4日（土）に「海外の日本語教育現場（北米編）」がオンラインで開催されました。事前の参加登録者53名のうち31名（58.4%）が日本語教育学会非会員でした。

まず、チャレンジ支援委員会の委員による「趣旨説明」の後、登壇者3組（1組2名）にそれぞれ、アメリカの日本人学校および補習校における日本語教育、国際交流基金による米国若手日本語教員派遣、そして全米日本語教育学会の活動や北米の大学での日本語教育についてご説明いただきました。さらに、アメリカで実際に教壇に立ち、日本語教師としてご活躍なさっている方からのお話など、日本では普段あまり聞けない貴重な情報のご提供がありました。休憩後は、事前に参加者から募った登壇者への質問のうち、共通して多かった「北米での就職に関する情報サイトや就活サイト」「北米で働く教員に求められる資格（例：学部卒でも働けるのか）」「日本語教育の将来性は？」などの質問にそれぞれご回答いただきました。次の「車座タイム」では、ブレイクアウトセッションで3つのルームに分かれ、希望する機関のルームに参加者側で自由に行き来してもらいました。登壇者の皆様には、全体の説明ではなかった情報の提供や参加者からの質問や相談に丁寧にご回答いただきました。

フォーラム終了後に回収したアンケートでは、26名の回答者（回収率65%）のうち、大学学部生が61.5%で、また、このイベントをどこで知ったかという質問への回答では「大学や大学院、養成講座の先生など他者からの紹介」が69.2%を占めていた点が特徴的でした。また、全体として今回の企画に対しては、75%が大変満足、25%が満足との回答で、自由記述にも「もともと北米での仕事に関心があったのですが、情報を得られる場所が少なく困っていたときにこの企画に出会い、参加してみて、学べるのがたくさんありました」「大学卒業後のキャリアに、大学院進学や海外派遣など様々な選択肢があることを学ぶことができ、非常に有意義でした」等の回答があり、大変好評でした。今後期待するイベントに関しては、アメリカの就職事情にも関係してか、「日本語教育関連の大学院への進学」が最も多く、関心の高さがうかがえました。今回いただいたご感想やご意見は、次回のキャリアパスフォーラムにぜひ活かしていきたいと考えております。ご登壇くださった日本語教育機関のご担当者様、参加者の皆様、本当にありがとうございました。

チャレンジ支援委員会：大平・高村・平山・毛利（文責）



問合先：公益社団法人日本語教育学会（チャレンジ支援委員会）

TEL:03-3262-4291（9～18時のみ） E-mail:challenge@nkg.or.jp

